

京都大学前総長で「サル・ゴリラ」研究の世界的権威の山極寿一さんは「人間が信頼関係を築ける集団の人数は150人程度が限界」という。私たちがサルから分化して、ヒトになり始めてから「脳の大きさ」に変化はほぼない。この脳の大きさと約150人を超える集団の相互理解や信頼をかよわせるのは難しいらしい。長瀬小は児童・教職員合わせて約150人程度。山極さんの研究に大いに納得した。

山極さんはゴリラの集団と何年も一緒に生活する。「ヒト」の意識でゴリラ集団を観察しても、ゴリラは本当の姿を決して見せず、よそ者扱いする。そのため山極さんは「ゴリラ」になりきる。同じように動き、食べ、目を合わせ、ゴリラ語？も話す。そこで初めてゴリラは「オレたちとはちがう奴だが、群れの中にもイイ奴だ」として仲間に入れてくれ、本当の姿を見せてくれるそうだ。（そのため人間社会に久しぶりに戻ってくると、人間同士のコミュニケーションが少しの間、できなくなるとのこと）

私も1年生の教室に潜り込む？ときは1年生になりきるし、6年生教室では「6年男子」のつもりでふるまう。校長らしさをできるだけ消すこと、多少の「タメ口」や「身体接触（握手、時にパンチされる！）」は気にしない。おそらく子供たちは「変な大人だが、仲間に入れてやろうか？！」くらいに思っているのではないかと自分で勝手に思っている。

おかげでいろいろな情報を得ることができる。「〇年のA君はBさんが好き！」なんていうゴシップ情報は長瀬小150人の中で、私が一番知っている！